

(社)地盤工学会関東支部



Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

首都圏中央連絡自動車道・桶川 JCT 工事現場見学会の報告

埼玉県グループ

地盤工学会関東支部埼玉県グループでは、平成 21 年 2 月 3 日に首都圏中央自動車道（以下、圏央道）・桶川ジャンクション工事現場の見学会を開催し、無事終了したので報告します。

当日は、終日快晴で穏やかな見学日和となりました。

はじめに国土交通関東地方整備局大宮国道事務所山口三郎様より、圏央道埼玉県区間事業と桶川 JCT 工事現場の概要についてご説明をいただきました。続いて工事現場へ移動し、桶川 JCT の施工状況を建設中の道路高架から見学しました。ここでも、施工方法や周辺の地形条件などについて詳しいご説明をいただきました。

天候にも恵まれ、ほぼ予定通りの行程で見学会を終了することができました。

国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所の皆様には、現地での案内をはじめ、多大なご協力を賜りました。この場をかりて、厚く御礼申し上げます。



写真-1 国土交通省大宮国道事務所にて



写真-2 多数の方にご参加いただきました



写真-3 工事現場にて



写真-4 桶川JCT土工現場を眺める

「中国四川省大地震災害地への技術調査」の報告

企画総務グループ

地盤工学会関東支部調査団メンバー：東畑（東大）・國生（中大）・安田（電機大）・鶴飼（群馬大）・桑野（埼玉大）・笹田（応用地質）・大塚（応用地質）・凌（リン：ジオアナリシス研究所）

現地日程：2009年4月20日朝～22日夕

行程：

4月20日：成都—江油—陳家壩—李家村（斜面崩壊）—通口鎮—北川—安県—成都

4月21日：成都—映秀中学校—映秀（断層）—映秀震源点（土石流）—成都

4月22日：成都—謝家店（斜面崩壊）—銀廠溝（土石流）—成都

4月20日：

陳家壩—李家村では通口河支流沿いを北東から南西方向に、今回動いた主断層に沿った谷沿いに移動した。古生代（カンブリア・オルドビス・シルル）の砂岩・泥岩互層からなる風化が進んだ右岸（北西側）斜面で残積土や崖錘層の崩壊が多地点で起きて、その後の豪雨（7月と9月）での土石流も発生していた（写真-1）。左岸側の谷は硬岩路頭が多く崩壊は比較的少ない。

李家村はそのうちの大規模な崩壊で（写真-2）、集落が消滅したとのこと。崩壊土には巨礫がなくコブシ大から砂の粒径まで細粒化したものが流下し、剛体移動の特徴は見られない。地元民の話では、震動と共に崩壊し流動化した土塊が左岸まで押し寄せ、谷を埋め尽くして河を堰き止めた。支流と通口河本流の合流点から北川に向かって通口河本流右岸を遡った。やはり対岸側（北西側）は風化が進んだ細粒土の崩壊が多い（写真-3）。その後の豪雨（7月と9月）により多地点で土石流が発生し河を堰き止めており、集落の浸水を引き起こしたところもある（写真-4）。それに対し南東側は硬岩斜面からの巨礫の崩壊が起きており（写真-5、6）、違いが明瞭である。



写真-1 比較的に細粒な土石流の川への流れ込み



写真-2 風化の進んだ斜面崩壊と巨岩を含まない崩壊砂礫



写真-3 李家村-北川間の風化の進んだ斜面崩壊



写真-4 李家村-北川間の風化の進んだ斜面崩壊



写真-5 李家村-北川間の通口河合流点付近の道路沿い硬岩斜面の崩壊



写真-6 李家村-北川間の新鮮な硬岩斜面の巨礫を含む崩壊

その後、道路が冠水している地点で引き返し、通口鎮を通過して北川に抜けるために通口河の右岸を下るルートをとったが、急峻な堅岩路頭斜面の崩壊箇所を修復した道路で、硬岩が大きな岩塊に分かれて流れ盤滑りを起こしていた(写真-7)。また、左岸の切り立った横盤路頭に古生代の砂岩・泥岩互層の露頭を見ることができた(写真-8)。

北川の激甚被災地は立ち入り禁止となっていたが、その手前の丘から町全体を遠望できる(写真-9)。驚いたことに観光地化していて他の地域からたくさんの人が訪れ、被災民が生々しい被災写真などを売って生計を立てている(写真-10)。我が国では考えにくい、これは被災住民の生活再建の手立てと考えることもできる。

4月21日:

民江を遡り映秀に向かう道で、紫坪浦ダム人工湖沿いの左岸側に多数の硬岩斜面滑りが見られた(写真-11、12)。



写真-7 通口川合流点—通口鎮間の硬岩流盤斜面崩壊



写真-8 通口川合流点—通口鎮間の対岸に現われた砂岩・泥岩互層層理面の露頭



写真-9 北川入口の丘から見下ろした被災地の遠景。



写真-10 丘の上に並んだ被災写真などを売る被災住民



写真-11 紫坪浦ダム人工湖沿いの硬岩斜面滑り



写真-12 紫坪浦ダム人工湖沿いの巨岩崩壊

映秀では、龍門山断層帯のうち今回の地震で主に活動した映秀-北川断層が、民江を横切る地点での変位を観察できた(写真-13)。縦ずれ成分が3mほどで、横ずれ成分は小さい。河床の一部に河床礫の段差も残っており、地震直後は河床にも落差が生じていたことが読み取れる。川岸とほぼ直角方向(N-E20°)の走向で縦ずれ変位が連続しているのが確認できた。対岸の護岸壁は既に修復したせいか変位は認められないが、そのさらに奥には電柱の傾きや家屋の被害が遠くからも確認できた(写真-14、15)。断層付近に住家のあった地元のおばさんへのインタビュー(写真-16)で凌さんが驚異的な話を聞き出した。地震の時、まず断層が腕を広げた巾ほど水平に開き割れ目ができたとのこと。30分ほどのあいだ道路だけでなく河床にも割れ目が開き、その中に河の水が吸い込まれていったとのこと。30分から1時間経過して割れ目が閉じてから上下の段差ができたとのことである。

映秀から都江堰に向かって少し戻ったところで主要道から外れ、牛民沟震源点と名付けて観光化している地点に向かった。地震のときの斜面崩壊により発生した岩屑なだれ(地震時土石流)が谷を埋めて20数名の住民が無くなった谷沿いを土石流沿いに上がっていった(写真-17)。途中で落差数10mはある見事な滝があり谷の埋没はそこで終わっている。滝の下部は砂礫で埋まってしまい、もとの落差より40~50m短くなったとのこと(写真-18)。土石流は滝の上の高台から左に折れ曲がって下の谷筋に流下した(写真-19)が、住民の話では上流からの大量の岩屑は滝の上を飛び越えて滝直下の谷に直接落下したらしい。



写真-13 映秀-北川断層が民江をほぼ直角に横切る地点：縦ズレ3mほどが残された河床礫の高まりからもよみとれる。横ズレが大きく見れるが、元々の護岸のカーブと思われた。



写真-14 民江右岸での断層の走向（傾斜した電柱の位置を通過）



写真-15 民江左岸での断層の走向（手前の護岸は修復済みと思われるがその先の橋桁や家屋が傾斜している）



写真-16 地震時の断層の驚異的な動きを証言した地元の女性（左）と聞き取った凌さん



写真-17 震源点と銘々された震央近くの地震時岩屑流が谷を埋め23人の住民を生き埋めにした。写真-18の滝は谷の上流右手にある。



写真-18 数十メートル高さで3段ほどの滝を飛び越え直接下の谷を埋めて、滝は50mほど短くなった。周囲の斜面に飛散礫が見られる。



写真-19 下の谷を埋め尽くした土石流。手前斜面の下に滝がある。



写真-20 滝の上の谷を流下った土石流。その後の雨で侵食が進行している。



写真-21 地元の農家の人（左から2人目）から、地震のときの岩の噴き出しや油の匂いなどの証言。



写真-22 孫二人とかるうじて土石流から逃れた老婆。



写真-23 土石流で埋まった谷の向こうの斜面の2連の傾斜した送電鉄塔。



写真-24 手前の送電鉄塔の基礎。下流側基礎は健全に見える。

山の斜面に取り付いて、滝の上にある土石流の源（震源点）を確認に向かった。土石流の源はさらに 500m ほど高い山の斜面崩壊から発生していることが見て取れた（写真-20）。案内してくれた地元住民の話では（写真-21）、その下流に住んでいた老夫婦（土石流で亡くなった）を心配して見に来たところ、斜面の途中に大きな穴が開いてそこから白い岩が空中に飛び出てくるのを目撃したとのこと。また、

地震の 20 分ほど前に羊に飲ます谷水を桶に汲んでいたら、いつになく油の匂いがしたとのこと。帰りに土石流下流部で、かろうじて孫 2 人と共に地震直後の土石流から難を逃れたお婆さんの話も聞いた（写真-22）。

この現場に沿った斜面上にある送電鉄塔が 2 連に渡り、大きく傾斜しているのが見られた（写真-23、24）。線はまだ繋がっており、はじめは斜面崩壊によるものに思われたが、下側の基礎は健全で鉄塔はいずれも山側に傾いていた。隣の鉄塔は直立しているものの、線が垂れ下がっていた（写真-25）。土石流の谷を渡った反対側の山上の鉄塔は直立していた。またその向こう側には谷側に完全に倒れている鉄塔も見られたが（写真-26）、傾斜した鉄塔とは違う方向に電線が走っており、遠方であることも関係して詳しくは分からなかった。



写真-25 2連の傾斜した鉄塔の向こう側の鉄塔。



写真-26 多分、別系統の倒壊鉄塔。



写真-27 小魚洞大橋の落橋を左岸部から見る。



写真-28 小魚洞大橋の左岸取り付け盛土を斜交する逆断層



写真-29 農家の庭先で止まった崩壊斜面先端の巨礫。



写真-30 巨礫の山は縦揺れのあと突然現われたという農家の女性。



写真-31 土石流が突き破った杉林。



写真-32 今回の調査団メンバー

4月22日：

小魚洞大橋は、前は夕刻に短時間訪れた場所であるが、今回は日中に訪れた（写真-27）。橋を地震記念遺跡にするとのことで、近くの付け替え橋梁と道路も急ピッチで工事が進んでいた。左岸取り付け道路に南東—北西走行の南東側が約 0.5m 隆起の逆断層（主断層ではない）が走っているとのことで、確かにその部分で取り付け盛土とその上のコンクリート舗装版が亀裂や上下変形を受けていた（写真-28）。

謝家店の大地すべりも前回訪れた所であるが、今回は崩壊砂礫の堆積斜面を中腹まで登った。砂礫は花崗岩が主体で、遠望しても崩壊の源の斜面は花崗岩（笹田さんの説明では 10 億年前）のようであるが、他に砂岩系の礫も含まれている。我々の登った堆積斜面の勾配は平均 15 度とのことである。帰りに、辛うじて崩壊砂礫の流下堆積域から外れた農家の庭先で、崩壊礫塊の先端部の様子を観察した。

その農家の女性に地震当日の話を聞いたが、気が動転していたためか、地震の揺れで建物などが倒壊した後、縦の突き上げが2回あり、その後突然、崩壊礫の山ができていたとのことである。

銀廠溝は7月の土石流での被災地で、前回も訪れた所である。古い時代の花崗岩の山の崩壊から流下した花崗岩を主体とした巨礫を含むが、砂も混じっており、体積エリアの平均勾配は10度とのこと。一段のぼった杉林の上の台地での堆積の状況は前回よりも凹凸が増したように思われ、その間にまた土石流が繰り返した可能性がある。

アフター5 談話会「21世紀の社会資本整備のあり方～土木が国を変える～」

会員サービスグループ幹事
橋本則之(株) 不動テトラ

平成21年4月21日の17:30～19:00に、アフター5 談話会「21世紀の社会資本整備のあり方～土木が国を変える～」と題して衆議院議員の馬淵澄夫先生に御講演頂きました。

馬淵先生は、横浜国立大学工学部土木工学科で地盤工学を学ばれたご経験を活かされ、現在は皆様ご存知の通り国土交通行政のエキスパートとして国政の場でご活躍されております。

今回は、土木技術者出身の国会議員ならではのお立場から、現在多くの課題が指摘されている社会資本整備のこれからのあり方や土木技術者が果たすべき役割等につきまして非常に分かり易くご講演して頂きました。また当日は40名の方に出席頂き、さらに質疑応答の時間もたくさん取って頂いたため、非常に活発な談話会となりました。

なお、今回の御講演の主な内容につきましては以下の通りでした。

1. 公共事業のあり方について
2. 全総から重点計画へ
3. アウトカム指標に潜む危険は？
4. 高速道路の無料化政策
5. 社会資本整備を担う土木技術こそが、時代を創造する

最後になりましたが、貴重な講演会を実施していただきました馬淵澄夫先生に対し深く御礼申し上げます。



写真 馬淵先生による講演状況

東京国際空港（羽田）D 滑走路プロジェクト見学会の報告

埼玉県グループリーダ幹事
橋伸也（埼玉大学）

地盤工学会関東支部埼玉県グループでは、平成 21 年 5 月 11 日に東京国際空港（羽田）D 滑走路プロジェクトの見学会を開催し、無事終了いたしましたので報告します。

当日は、終日穏やかな天候で、見学日和となりました。

現地ではまず、D 滑走路を見渡せる対岸の展望台において、国土交通省一関東地方整備局一東京空港整備事務所の野口孝俊様より、東京国際空港 D 滑走路の概要についてご説明をいただきました。続いて、船に乗船し、海上から D 滑走路棧橋部を見学しました。その後、埋立部に上陸いたしました。ここでも、施工方法や工程について詳しいご説明をいただきました。参加者からの多数の質問にも丁寧にご回答いただきました。

天候にも恵まれ、予定通りの行程で見学会を終了することができました。



写真-1：見学当日の状況



写真-2：見学当日の状況

国土交通省一関東地方整備局一東京空港整備事務所の皆様には、現地での案内をはじめ、多大なご協力を賜りました。この場

をかりて、厚く御礼申し上げます。

なお、本見学会をご案内させていただいた後、早期に定員に達したため多くの方々に参加をお断りいたしました。ここにお詫び申し上げます。

性能設計と原位置試験委員会報告会

地盤工学会関東支部

日時：平成 21 年 5 月 13 日 13:00-17:40

会場：JGS 会館 地下会議室

プログラム：

1. 開会挨拶 高橋委員長、
2. 性能設計と原位置試験 菅野幹事長、
3. 性能設計の前提と地盤調査法 神田委員、
4. 性能設計に向けたサウンディングの役割 澤田委員
5. 性能設計に向けた原位置せん断摩擦試験（SBIFT）新田委員、
6. 性能設計に向けた多重セル型プレッシャメータ試験 益田委員、
7. 性能設計に向けた重錘落下（FWD）試験の活用方法 平川委員、
8. 性能設計体系における地盤調査の役割—地盤改良設計に対する CPT による評価例—片桐委員、

9. 性能設計における静的コーン貫入試験による施工事例 野口委員、

10. 特別講演 「性能設計最前線」

国土交通省港湾局技術企画課 坪川課長補佐
国土技術政策総合研究所港湾研究部 宮田主任研

11. 閉会挨拶 高橋委員長

参加者数：61名 会員 56名、学生会員 2名、非会員 3名

報告会概要：

本委員会報告書の章立てに沿い執筆担当者が本委員会の成果を報告した。2、3章において、性能設計の手順における原位置試験の活用、活用事例を報告、4～7章では、個別の原位置試験の設計体系での位置付け、何を計測し、どの様に設計・施工に活用するかについて報告、8、9章で、実際の施設建設工事における原位置試験の活用と活用した効果について報告した。

特別講演においては、平成18年4月から全面的に性能設計体系となった「港湾の施設の技術上の基準」の現状と問題点について説明していただいた。産・官・学、調査・設計・施工といった、各々の立場から質疑応答があり、また、報告会終了後にメールでの質問も寄せられている。



写真-1：報告会の状況



写真-2：報告会の状況

第1回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会報告

研究委員会グループ
足立有史（ハザマ）
三上武子（応用地質）

地盤工学会関東支部「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計に関する研究委員会」では、昨年10月27日の全体講習会に続き、下記の通り、“第1回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会”を開催し、無事終了いたしましたので報告いたします。

開催日時：平成21年5月22日（金）17：30～19：00

内容・講師：

1. 4章「性能設計への液状化の導入方法」：足立有史 ハザマ
2. 5章「液状化を考慮した性能設計の導入に向けた現状と今後の展望」：三上武子 応用地質（株）

本講習会は、上記委員会の成果報告書『液状化を考



写真-1：講習会当日の状況



写真-2：講習会当日の状況

慮した地盤と構造物の性能設計』をテキストとして、地盤の液状化を考慮した性能設計の方法論などを2回に分けて開催するものです。

第1回目となる今回は、コンサルタント、ゼネコンの方々を中心に約20名のご参加をいただきました。

性能設計導入の動向や性能設計に用いる地盤データやその評価方法等、実務において関係深い事柄について質問をいただき、貴重な意見交換の場となったと思います。

また、参加者の皆さんには、本講習会に対するアンケートもお願いしました。このアンケート結果を2回講習会へ反映させることで、より役に立つ講習会となるよう期待しています。

第2回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会報告

研究委員会グループ
立石章（大成建設(株)）
新川直利（株不動テトラ）

地盤工学会関東支部 液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計に関する研究委員会では、昨年10月27日の全体講習会および“第1回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会”につづき、下記の通り、ミニ講習会の第2回を開催し、無事終了いたしましたので報告いたします。

開催日時：平成21年6月19日（金） 17:30～19:00

内容・講師：

17:30～18:15 3章「耐震性能と限界状態」、立石章、大成建設(株)

18:15～9:00 5章「液状化を考慮した性能設計の導入に向けた現状と今後の展望」新川直利（株不動テトラ）

本講習会は、上記委員会の成果報告書「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」をテキストとして、地盤の液状化を考慮した性能設計の方法論などを2回に分けて開催するものです。

第2回目となる今回は、コンサルタント、ゼネコンの方々を中心に約15名のご参加をいただきました。

前半では、性能設計の導入の背景についてふれてから、性能設計と液状化との関係について各種構造物ごとに被害事例を説明しました。後半では、地盤調査と解析のグレードを合わせる考え方を



写真-1 講習会当日の状況



写真-2 講習会当日の状況

説明し、液状化による構造物の沈下を対象とした性能曲線に関する研究事例を紹介しました。講習後のアンケート結果より、多くの参加者の皆さんの一助になったものと思っております。

このようなミニ講習会は、地盤工学会における研究成果を会員の皆様に伝えていくうえで大変有用であり、今後も開催されることを期待しております。

ハッ場ダム関連現場見学会実施報告

群馬県グループリーダ幹事
若井明彦（群馬大学）

以下のように実施いたしましたので、ご報告します。

名称：ハッ場ダム関連 現場見学会

主催者等：

主催 地盤工学会関東支部、共催 土木学会関東支部群馬会、後援 群馬県建設技術センター

日時：平成 21 年 5 月 28 日（木）9 時～17 時

参加者：35 名（登録 36 名）

参加費：4000 円／人（昼食代・旅行傷害保険を含む）

行事運営：若井 明彦 ほか

説明協力：国土交通省関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所 職員 2 名、群馬県 ハッ場ダム水源地域対策事務所 職員 2 名

内容：

群馬建設会館（前橋）がバスの発着点。吾妻川の中流に建設されるハッ場ダムの予定地周辺で工事が進んでいる各種工事（下記）について一日見学を行った。現地では国土交通省のマイクロバス（2 台）に分乗した。

9:15 群馬建設会館 発
10:30 やんば館 着 概要説明（群馬県・国土交通省）→ 11:00 発
11:15 林地区～長野原地区代替地（国土交通省）
11:45 浅間酒造観光センター 着 昼食 → 12:30 発
12:45 JR 吾妻線 第 3 吾妻橋梁～横壁地区代替地～湖面 3 号橋（国土交通省）
13:30 湖面 2 号橋～川原湯地区代替地（国土交通省）
14:15 川原畑地区代替地（国土交通省）
14:30 ダムサイト、仮排水トンネル（国土交通省）
15:00 雁ヶ沢ランプ（群馬県）
15:30 JR 吾妻線 第 2 吾妻橋梁～県道林岩下線（群馬県・国土交通省）
15:45 溪谷パーキング 着
17:00 群馬建設会館 着



写真-1：当日見学会の状況

感想：一日で多様な現場を巡回することができ、丁寧な現場説明と豊富な配布資料もあり、極めて有意義な見学会であった。

一 収支状況： 5000 円程度の黒字（予算規模は約 14 万円）。

謝辞： 群馬県の 坂尾博秋 様（県土整備部 道路整備課長）には、行事企画全般にわたり多大なるご助力を頂きました。記して厚く御礼を申し上げます。

第 45 回 アフター 5 談話会「火山噴火による細粒火山灰とその被害 —三宅島 2000 年噴火と浅間山噴火の事例—」行事報告

会員サービスグループ幹事
北爪貴史（東電設計㈱）

平成 21 年 6 月 5 日 17 時～19 時、JGS 会館地下会議室にて、第 45 回アフター 5 談話会が開催されました。当日は 20 名の方のご参加をいただきました。

ご講演は、アジア航測株式会社の千葉達朗様によって行われました。千葉様は、地盤工学会関東支部の「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会（平成 17～20 年）」の委員としても御活躍されました火山防災分野における第一線の技術者・研究者です。



写真 千葉様によるご講演の様子

今回の談話会では、本年 2 月の浅間山噴火による細粒火山灰の関東地域への降灰予測が花粉モニタリングシステムと連動していたこと、火山噴火起源の細粒火山灰が地盤工学的にかなり特徴のある性質を有していること、など、非常に興味深いお話を伺うことができました。2 時間があっという間でした。また、当日は 1000 円で販売致しました「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会活動報告および三宅島 2000 年噴火に関する論文集」も参加者の方達にご購入頂くことができ、支部の会計にもご貢献いただきました。（まだ 10 部程度のストックがございますので、お早めにどうぞ！）

最後に、大変お忙しい中、ご講演を実施していただきました千葉様に深く感謝致します。

埼玉グループ平成 21 年度技術講演会報告

埼玉グループ
元幹事 瀧本清互

埼玉グループでは埼玉県地質調査業協会との共催で、6 月 24 日 13:00～17:00 から「平成 21 年度技術講演会」を行いましたので報告します。

開催日当日は、朝からあいにくの雨が降っていましたが、午後には雨もどうにか上がり、およそ 100 名の方の参加がありました。公演の演題および公演者は以下のとおりです。

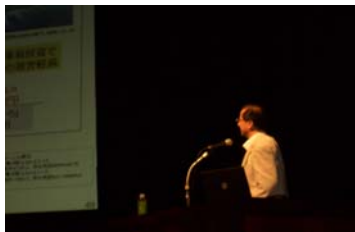
- 演題 1 新たな時代へー荒川放水路の果たす役割ー
関東地整 荒川下流河川事務所 津久井俊彦 先生
- 演題 2 2008 年四川大地震地盤災害視察報告
埼玉大学地圏科学研究センター 桑野二郎 先生
- 演題 3 南極氷床掘削プロジェクトの紹介
3D 地科学研究所 中山芳樹 先生

演題 1 は荒川河川事務所の取り組みと、荒川放水路が約 100 年に渡って果たして来た、また今後果たすであろう役割についての解説がありました。

演題2は、先日地盤工学会関東支部の四川大地震視察団として参加された際の、主に斜面災害を中心とした現地の状況についての報告と解説がありました。

演題3は、南極大陸内陸部のみずほ基地、ドーム富士基地において実施された氷床掘削の様子と成果について現地での生活の様子を交えながらの紹介がありました。

この講演会は来年度も実施する予定でおります。その際には多数のご来場をお待ちしております。



荒川下流河川事務所津久井先生の公演



埼玉大学桑野先生の公演



3D地科学研究所中山先生の公演

地盤工学会創立 60 周年記念無料講演会

わが家を地震と水害から守る

行政と市民の連携に向けて

社団法人地盤工学会・地盤工学会関東支部

本講演会では、首都圏にお住まいの方々を対象に、災害発生時において我が家（財産、生命、生活）は安全か、今からできる最低限の備えはどのようなものか、地域社会のコミュニケーションが希薄化している中で行政と地域、市民・都民の連携・共助をどう活かすか等について、我が国一流の専門家を集めて防災の基本に関して講演を行います。

開催日時：平成 21 年 9 月 5 日（土） 13：30～16：50

開催場所：東京大学武田ホール（武田先端知ビル 5 F）、
東京メトロ 千代田線「根津駅」（1 番出口）徒歩 5 分、

参加料金：無料

内容・講師：

時間	内容	講師
13:30～13:40	開会挨拶	谷 和夫 【横浜国立大学】
13:40～14:20	緊急地震速報をどう役立てるか	片山 恒雄 【東京電機大学】
14:20～14:40	液状化しやすい場所、ゆれやすい場所	小川 好 【東京都土木技術支援・人材育成センター】
14:40～15:00	ゲリラ豪雨と洪水	山田 正 【中央大学】
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:30	住宅・マンションの耐震補強技	河合 直人 【(独) 建築研究所】
15:30～15:50	阪神淡路大震災から学んだ助け	高嶋 哲夫【作家】
15:50～16:10	地震保険の価値と限界	山口 亮 【損害料率算出機構】
16:10～16:40	総合討論	安田 進(座長) 【東京電機大学】
16:40～16:50	閉会挨拶	古屋 弘 【(株)大林組 地盤工学会理事】

申込み先：(社)地盤工学会関東支部

FAX：03-3946-8678 電話：03-3946-8670

E-MAIL：event60y@jiban.or.jp

詳細は地盤工学会関東支部 HP をご覧ください <http://www.jiban.or.jp>

【行事報告】

- 「彩の国市民科学オープンフォーラムー首都圏直下地震による埼玉県の被害と防災-」：H21年1月5日、大宮ソニックシティビル4階 市民ホール
- 「桶川 JCT 付近での橋梁や盛土工事の現場見学会」、H21年2月3日、埼玉県桶川市
- 特別講演会「建設コンサルタント賠償責任保険の支払いからみる事故原因」、H21年2月12日、JGS 会館
- 特別講演会「エジプトの地盤と特殊土が構造物の安定性に与える影響」、H21年3月11日、中央大学
- 中国四川省の地震災害地への技術交流団派遣、H21年4月19日～23日、中国四川省

- アフター5 講演会「21世紀の社会資本整備のあり方～土木が国を変える～」：H21年4月21日、JGS会館
- 支部総会特別講演会「整備新幹線と東北の小土被りトンネル群」、H21年4月28日、JGS会館
- 「東京国際空港（羽田）D滑走路プロジェクト見学会」、H21年5月11日、東京羽田空港
- 「性能設計と原位置試験委員会報告会」、H21年5月13日、JGS会館
- 第1回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会、H21年5月22日、JGS会館
- 「八ッ場ダム関連現場見学会」、H21年5月28日、群馬県八ッ場ダム
- アフター5 講演会「火山噴火による細粒火山灰とその被害－三宅島2000年噴火と浅間山噴火の事例－」：H21年6月5日、JGS会館
- 埼玉グループ「平成21年度技術講演会」、H21年6月24日、さいたま市文化センター
- 第2回「液状化を考慮した地盤と構造物の性能設計」ミニ講習会、H21年6月29日、JGS会館

【行事予定】

- 千葉県グループ「北千葉道路・成田新高速鉄道見学会」：H21年7月30日、千葉県
- 地盤工学会創立60周年、同関東支部設立5周年記念「絵画コンクール」、H21年8月19日、関東学院大学
- 地盤工学会創立60周年、同関東支部設立5周年記念「第4回学校対抗ソイルタワーコンテスト」、H21年8月20日、関東学院大学
- 地盤工学会創立60周年、同関東支部設立5周年記念「アート泥団子」、H21年8月20日、関東学院大学
- 地盤工学会創立60周年記念防災の日協賛行事「我が家を地震と水害から守る」無料講演会、H21年9月5日、東京大学本郷（浅野）キャンパス武田ホール

(王 林：企画総務グループ幹事)

発行 社団法人 地盤工学会関東支部
〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 TEL03-3946-8670 FAX03-3946-8678
E-mail : igskantou@jiban.or.jp URL : <http://www.jiban.or.jp/kantou/index.html>